

○ 8月豪州牛肉船積み前年比20.1%減の2.3万t、チルド1.0万t—MLA

MLA豪州食肉家畜生産者事業団が9日に発表した8月の牛肉輸出数量(船積み数量)によると、同月の輸出量は2万2,647t(前年同月比20.1%減)となった。8月比でも5,807t減と現地コスト高、国内牛肉需要不振の中で、大きく減少した。1~9月累計では23万2,999tで6.3%減となった。

9月の内訳では、チルドは1万56t(同12.6%減)、フローズンは1万2,592t(25.1%減)。ともに減少し、特にフローズンの減少が大きかった。グレード別には、物量の大きいフローズン・グラスが9,213tで27.5%減と1万tを割り込んだほか、チルド・グレインは6,681tで15.3%減少した。

△12年9月の豪州の対日牛肉輸出量(船積ベース)

(単位:t、前年比%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		1~9月累計	
チルドビーフ	10,680	11,603	11,915	12,130	11,295	10,056	(87.4)	96,203	(92.8)
グラス	4,022	4,018	4,186	4,337	3,541	3,375	(93.2)	31,679	(91.5)
グレイン	6,658	7,585	7,729	7,793	7,755	6,681	(84.7)	64,523	(93.5)
フローズンビーフ	14,012	18,975	18,401	18,898	12,592	12,592	(74.9)	136,797	(94.3)
グラス	11,827	15,392	14,601	14,697	13,167	9,213	(72.5)	107,302	(100.6)
グレイン	2,185	3,583	3,800	4,201	3,992	3,378	(82.2)	29,495	(76.8)
合計	24,692	30,578	30,315	31,028	28,454	22,647	(79.9)	232,999	(93.7)
グラス	15,849	19,410	18,787	19,034	16,707	12,588	(77.1)	138,981	(98.3)
グレイン	8,843	11,169	11,529	11,995	11,747	10,059	(83.8)	94,019	(87.5)

○ 東京都食育フェアに参加、部位の特長を紹介、選食の大切さ訴える—TOKYO X

東京のブランド豚「TOKYO X」の流通事業者らで組織するTOKYO X-Association(植村光一郎会長、以下アソシエーション)は6日、東京・代々木公園で開かれた「第6回東京都食育フェア」(東京都主催、7日まで開催)に参加した。来場者にカットイングデモンストラーションや試食を通じてTOKYO Xの特徴や美味しさを知ってもらい、良い食材を選択する「選食」により消費者も食料生産工程に大きく貢献できるなど食育の大切さを訴えた。

アソシエーションでは活動のひとつに食育を掲げており、これまでの様々な食育イベントに参画している。都の食育フェアへの参加は今年で4年目。今回は「尊厳ある命に感謝」と題して特設ステージでX豚の特徴を紹介した。このなかで植村会長は、▽畜種は東京都畜産試験場で7年の歳月をかけ、5世代の改良を経て、日本種豚登録協会に97年に登録▽系統名「トウキョウX」の純血種同士の交配で生まれた子豚を生産管理マニュアルにより育て、第5・第6肋骨の間を分割し肉質基準を満たしたものだけに「TOKYO X」の称号が与えられる▽現在、年間約9千頭の出荷があるが、出荷数が少ないため原則都内の販売店にしか置くことができない——ことなどが紹介された。さらに、こうした品種的優位性に加えて▽ストレスフリーで育てられ、改良当初

から味覚だけでなく香りについても造成目標とされている▽肥育飼料にアルファルファミールとふすま等の繊維質の多い飼料が7.5%入っており、一般豚のふん量と比べて約1.5倍あるため獣臭や豚臭がなく、芳香性のあるナッツのような甘い香りが損なわれない様に大切に育てられている——と生産段階での取組みの特徴も強調した。



カッタイングデモンストラーションでは、肩ロース、ウデ、ロース、ヒレ、バラ、内モモ、シタマ、ランプ、外モモの部位特性を紹介

＝写真。聴講者のなかから10人に、しゃぶしゃぶを生醤油のみで試食してもらい、X豚の香しい香りと味わいを体験してもらったほか、会場にいた約250人に焼肉として振る舞った。

最後に植村会長は会場の参加者に向けて、「食育の大きな柱は、『食べ物に感謝すること』『良い食材を見極める選食』『食を通しての世界環境を考える』こと。よい食材を選食し、その食材に感謝し適正な価格で購買することで、消費者も食料生産工程に大いに貢献することができる。食育を実践することで皆さんの力で食料自給率を高めよう」と強く呼びかけた。